

1. 略歴

- 1995年3月 東京外国語大学外国語学部ロシア・東欧語学科チェコ語専攻卒業
- 1999年3月 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程修了
- 2002年6月 バリ第4大学第3課程スラヴ研究科DEA取得
- 2003年3月 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程修了
- 2003年10月 北海道大学スラブ研究センターCOE 研究員
- 2004年4月 東京外国語大学大学院国際文化講座助手
- 2005年4月 武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科専任講師
- 2008年4月 同准教授
- 2010年4月 立教大学文学部文学科文芸・思想専修/文学研究科比較文明学専攻准教授
- 2016年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中東欧文学、比較文学

b 研究課題

20世紀プラハの文学・美術

c 概要と自己評価

現在、主に以下のテーマに基づき、研究を進めている、

- (1) 20世紀チェコ文学
- (2) 中東欧における文学史記述
- (3) 翻訳の諸問題

(1) に関しては、近年、戯曲家・政治家ヴァーツラフ・ハヴェルを中心に研究を行なっている。社会主義体制下におけるハヴェルの戯曲と政治の関係を、翻訳、論文を通して検討を行ない、その成果は単著にまとめられた。

(2) に関しては、文学理論の観点からの考察を共著で行ない、今後はさらに複数言語の文学史記述の可能性を探求する予定である。

(3) については、(2)とも関連する文学史のレベルの問題、世界文学的な文脈での問題（これについて論文「翻訳における時差——「世界文学」と「時間」を参照）、さらには文芸翻訳の実践の3つの問題系から研究を進めており、その成果の一部は着実に論文として発表している。

d 主要業績

(1) 著書

- 単著、阿部賢一、『NHK 100分de名著 ヴァーツラフ・ハヴェル『力なき者たちの力』』、NHK出版、2020.1
- 共著、井上暁子・三谷研爾・阿部賢一・藤田恭子・越野剛、『東欧文学の多言語的トポス』、水声社、2020.3

(2) 論文

- 阿部賢一、「「スラング」の機能 チェコ文学の「1989年」」、『思想』、2019.10月号、no.1146、140-152頁、2019
- Kenichi ABE、「Exotiky se chraň! “neboli mentální mapa poetistů”」、『Slovníky modernistů a paradigmata moderny』、2019
- 阿部賢一、「コンスタンチン・ビーブルの詩集『紅茶と珈琲を運ぶ船とともに』におけるエキゾティシズム」、『れにくさ』、第9号、44-61頁、2019.3
- 阿部賢一、「ボヘミアにおける文学史の系譜——フェリクス・ヴォジチカの「文学史」論をめぐる」、井上暁子・三谷研爾・阿部賢一・藤田恭子・越野剛、『東欧文学の多言語的トポス』、水声社、69-105頁、2020.3
- 阿部賢一、「翻訳における時差——「世界文学」と「時間」」、坪井秀人・瀧井一博・白石恵理・小田龍哉編『越境する歴史学と世界文学』、臨川書店、137-150頁、2020.3
- 阿部賢一、「ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲『再開発』と全体主義」、『れにくさ』第10-1号、42-59頁、2020.3

(3) 学会発表

- 国際、阿部賢一、「„Exotiky se chraň!“ neboli mentální mapa poetistů」、Slovníky modernistů a paradigmata moderny、モラヴィア図書館（チェコ共和国）、2018.9.20

国内、阿部賢一、「ボヘミアにおける文学史の系譜」、シンポジウム「東欧文学の多言語的トポス：複数言語使用地域の創作をめぐる求心力と遠心力」、東京大学、2018.10.6

国際、阿部賢一、「Svět zvířat v díle Bohumila Hrabala」、Internationale Konferenz "Achtung, Ein grosser Autor! Milan Kundera und Bohumil Hrabal"、ライプツィヒ大学、2019.2.16

国内、阿部賢一、「翻訳されるテキスト、翻訳されないテキスト：中東欧の視点から」、日本フランス語フランス文学会関東支部、日本女子大学、2019.3.9

国内、阿部賢一、「翻訳における時差——「世界文学」と「時間」」、国際ワークショップ「グローバル・ヒストリーと世界文学」、2019.6.2

国内、阿部賢一、「増殖し、分裂する「私」：20世紀初頭のプラハにおける「人造人間」と「分身」の系譜」、日本比較文学会東京支部シンポジウム、東海大学高輪キャンパス、2019.10.19

国内、阿部賢一、「劇作家が政治家になる時——ヴァーツラフ・ハヴェルと89年」、第4回ボヘミア・フォーラム、大阪大学、2019.11.30

(4) 会議主催(チェア他)

国際、「The Institute for World Literature」、実行委員、2018.7.2～2018.7.26

(5) 翻訳

共訳、Derek Sayer、「Prague, Capital of the Twentieth Century: A Surrealist History」、阿部賢一、河上春香、宮崎淳史、『プラハ、二〇世紀の首都 あるシュルレアリスム的な歴史』、白水社、2018.9

個人訳、Jakub Plachý、「Velká kniha o čurání」、阿部賢一、『おしっこ"小"百科』、河出書房新社、2018.12

個人訳、Bohumil Hrabal、「Obsluhoval jsem anglického krále」、阿部賢一、『わたしは英国王に給仕した』、2019.3

個人訳、Bianca Bellová、「Jezero」、阿部賢一、『湖』、河出書房新社、2019.4

個人訳、Václav Havel、「Moc bezmocných」、阿部賢一、『力なき者たちの力』、2019.8

(6) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、阿部賢一、研究代表者、「ボヘミア文学史の記述に関する研究」、2019～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、東京外国語大学、「ヨーロッパ文化研究、チェコ語」、2018.4～2018.9

非常勤講師、立教大学、「世界文学論」、2019.9～

非常勤講師、NHK文化センター、2019.10～

(2) 学会

国内、日本スラヴ学研究会、企画編集委員長、2016.6～2018.6

(3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

国内、翻訳コンテスト審査員(チェコセンター)、2016～現在に至る